

2021年2月野菜概況

気温は全国的に高く、北日本日本海側で多雨。東日本太平洋側・西日本日本海側は記録的多照。

全国的に気温が高く日照時間も多かったが降雨もしばしばあり、順調な生育から葉物類での潤沢入荷が目立つ月となった。2月の野菜総入荷量は114,660t(前年比94%)で平年並み。価格232円(107%)は平年より1割近く安。金額は26,599百万円(101%)で平年を1割下回った。

だいこんは千葉・神奈川産は気温上昇と降雨により、前段の低温・干ばつの影響が回復傾向となるも、総入荷量は平年より1割少なかった。荷動きは概ね鈍い状況で、価格81円(117%)は平年より1割以上安。**にんじん**は関東産が前進傾向で終盤となり残量少なく、絶対量不足に。他市場等からの引合いもあって中旬から相場上昇した。総入荷量は平年より1割少なく、価格151円(128%)は平年より2割近く高。

はくさいは茨城・兵庫産が安定的な出荷で数量潤沢。量販店の春商材への切り替わりで需要も縮小して荷動きは鈍く、安値が続いた。総入荷量は平年よりやや多く、価格31円(61%)は平年より6割以上安。**キャベツ**は愛知・千葉・神奈川産が概ね順調出荷。神奈川産の本春キャベツは中旬より出荷開始。全体的に降雨による数量減とその後の増量で相場の揉み合いある中で、価格は安値水準で推移。総入荷量は平年より1割以上多く、価格63円(107%)は平年の4割安。**ほうれんそう**は群馬・茨城産を中心に関東産の順調出荷が続いた。価格がこなれているため荷動きはあるも、入荷量が潤沢なことから安値が続いた。総入荷量は平年より1割以上多く、価格374円(93%)は平年の2割安。**ねぎ**は千葉・埼玉産は干ばつの影響が続き作柄不良。秋冬作が早めに切り上がり、春作が遅れたため全体量は少なく高値が続いた。総入荷量は平年より2割少なく、価格493円(238%)は平年の6割高。**レタス**は静岡・兵庫産中心に前月の降雨による減少で月初こそ高値を引き摺ったが、干ばつが解消されたことで増量し相場は下落に向かった。中旬からは茨城産も始まり数量充分、相場は軟調傾向となった。総入荷量は平年よりやや多く、価格157円(100%)は平年の3割安。

きゅうりは高知・宮崎・千葉産中心の出回り。月初は恵方巻きや特売需要のため引合い強く高値だったが、その後は引合い落ち着き相場反落。概ね安定的な入荷で総入荷量は平年並み、価格399円(89%)は平年並み。**なす類**は高知・福岡産が安定的な出回りで、荷動きは停滞しており相場は徐々に下落する展開。総入荷量は平年より1割多く、価格472円(96%)は平年よりわずかに安。**トマト**は熊本・栃木産中心の出回り。月後半にかけて玉流れが小玉傾向になり、全体量も減少して引合い高まるも相場はやや上昇する程度。総入荷量は平年よりやや多く、価格313円(73%)は平年より2割以上安。**ピーマン**は高知・宮崎産が前月の寒波により生育停滞し、上旬は落ち着いた出回り。その後は回復して順調出荷となり、荷動き鈍化から相場は弱含みで推移。総入荷量は平年より1割近く多く、価格733円(87%)は平年並み。

ばれいしょ類は前年から引続き北海道産の貯蔵量が少なく、鹿児島産も天候不良での掘取り停滞や現地での引合いの強さから少ない出回りが続いた。高値のため荷動きはさほど良くないが絶対量不足により相場は下がらず。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格235円(261%)は平年の6割高。**たまねぎ**は北海道・静岡産の出回り。新玉ねぎは春商材としての引合いもあり荷動きは良好、下旬は佐賀産との端境となり不足感が高まった。道産は荷動き鈍めで推移。総入荷量は平年よりやや少なく、価格105円(128%)は平年よりわずかに安。

【輸入野菜】ばれいしょは前年にアメリカ産が寒波により大幅に少なかったことから、本年の輸入量は前年比で大幅増。

にんにくは前年に中国産がコロナ禍の影響で輸入量が少なかったことから、前年比で大幅増。にんじんは国産品が高値で推移したことから中国産を中心に輸入量が前年比で大幅増。一方、かぼちゃはニュージーランド産の不作やコロナ禍での外食需要の減退により前年比で大幅減。ねぎは中国産の作付減と天候不順により前年比で大幅減。結球レタスは国産が豊作で安値だったことやコロナ禍で外食需要が減退したことにより、台湾産を中心に前年比で大幅減。